

フタスジモンカゲロウ

Ephemera japonica

モンカゲロウ科



フタスジモンカゲロウ (幼虫) (撮影: 宮下 力)

名前の由来

「フタスジ」は腹部腹面に筋が2条あるため。「モン」は紋だと思われるが不明。「カゲロウ」は成虫での寿命が短いため、はかなく消える陽炎になぞらえたとされている。
漢字名：二筋紋蜉蝣

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類
ワシ・タカ

形態的特徴

幼虫の特徴：腹節背面中央に1本の黒褐色の縦条紋があり、それをささむ逆ハの字の紋と合わせて「小」の形に見える。
成虫の特徴：体長約25mm以上、前後翅ともに幅が広い。尾は3本ある。

類似種と見分け方：モンカゲロウ。

モンカゲロウには腹節背面中央に縦条紋がないので、逆ハの字の紋となる。



フタスジモンカゲロウの成虫 (撮影: 宮下 力)

生息環境・分布

上流域の砂泥底に埋没して生活している。
分布：国外分布は、ロシア極東部。
国内分布は、北海道から九州。北海道内では、普通に分布。十勝地方では、普通に分布する。

食性・他の生物との関わり

トンネル内で鰓を波打たせて水を送り、有機物粒子を濾して摂食する。
一つの河川に3種のモンカゲロウが生息する場合、フタ

スジモンカゲロウは上流、モンカゲロウは中流、トウヨウモンカゲロウは下流に棲み分ける。
魚類の餌となる。

繁殖生態・寿命

オスは群飛を行い、メスが通過する際に空中交尾が行われる。メスは小卵塊を数回に分けて水面に降下産卵する。産

卵前のメスは遡上飛行をする。
一年一化（1回発生）

興味深い話

■一つの河川に3種のモンカゲロウが生息する場合、フタスジモンカゲロウは上流、モンカゲロウは中流、トウヨウモンカゲロウは下流に棲み分ける。

■カゲロウは、儚い物の例えにされてきた通り、羽化後の寿命は1時間～2週間（多くが1～2日）と大変短い。そのため、羽化や繁殖行動は一斉に起こる。

配慮事項

幼虫は流れの緩い淵等の砂泥底に生息するため、自然に形成される瀬と淵の存在が重要である。成虫の産卵には自然の砂州が必要である。

生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
卵期・幼虫期	[Blue bar spanning all months]											
成虫期	[Red bar from June to September]											

参考文献

「アングララーのための水生昆虫フィールドノート」宮下力 出版文化社 2000
「日本産水生昆虫検索図説」川合禎次 東海大学出版会 1995

「日本動物大百科昆虫Ⅰ」日高敏隆 平凡社 1996
「水生昆虫の世界一流水の生態」大串龍一 東海大学出版会 1981